

ニュースレター 9月

2020. 9. 1発行



今月は出窓リフォームの失敗事例とその対策についてお届けします。



出窓は最近の新築住宅では、あまり見かけなくなりましたが、上手に作ればとても便利に使えます。でも意外な落とし穴にはまってしまうことも。出窓リフォームでよくある失敗事例と対策をご紹介します。

1、出窓の取り付けリフォームで家が傷んでしまうことも



リビングやキッチン、寝室などに出窓の取り付けリフォームをすれば部屋が明るくひろびろとした雰囲気となり、またカウンターの上に花や季節の飾り物を置くことができるなど、インテリア性も大きく向上します。

しかし、やたらに出窓を付けてしまうと、かえって居心地が悪くなったり家を傷めてしまうことも、既に出窓がついている家でも、このような悩みを抱えている人は少なくありません。上手に作ればメリットがたくさんある出窓リフォーム、よくある失敗にはどんなものがあるか？実際にあった事例とその対策をご紹介します。

2、出窓リフォームの失敗事例



出窓の結露問題が多い

その1 たった1年で真っ黒に腐った出窓のカウンター

北向きの子供部屋に、出窓の取り付けリフォームを行った。出窓は一般的な角型タイプで、木のカウンターがついていた。

狭い子供部屋も、出窓のおかげで明るくひろびろとして、最初は良かったのだが冬になるとガラスに水が伝わるほどの結露が発生し、ひと冬で木製のカウンターが真っ黒になってしまった。

リフォーム業者に見てもらったところ、カウンターは既に腐り始めていて、その水が内部に伝わって、窓を支える構造部分まで腐食が進み始めているとのこと。

原因は、出窓の断熱性能が低いために起きた結露だと分かったが、やり直すにも費用が掛かるので、気づいたら水滴を拭き取る、換気するなどの対策を取ることにして、そのままになっている。

【原因と対策】

出窓部分は、屋内側は凹んでいるので空気だまりができやすく、屋外側はガラス部が飛び出しているため冬に冷えやすい状態にあり、結露が起きやすい環境にあります。結露を防ぐためには、ペアガラスへの交換や、断熱性能を上げる工夫をしましょう。既製品の出窓に内窓を取付ける場合は、新たに枠の造作が必要です。カウンターの手前に取付ける方法もあります。また結露を防ぐためには、風通しにも気を配りましょう。



その2 背伸びしないと開け閉めができない出窓

キッチンリフォームの際に、狭いキッチンを少しでも明るく広く、風通し良くしたいと思い大きな出窓を取付けてもらった。工事が終わり、窓を開けようとしたら、背伸びしても出窓にうまく手が届かない、開閉に手間が掛かってメンドウなので、今では窓が閉めっ放しになっている。

* 出窓を取付ける前にサイズや開閉方法を必ずチェックしてください。

【原因と対策】

キッチンやデスクカウンターなどの奥に出窓を取付けたい場合は、手が届くかどうかよく検討しましょう。取付けてからでは遅いので、施工前にカタログやショールームなどで確認しましょう。出窓の前に家具を置く場合も、開閉のしやすさを確認することが大切です。また開閉方法によっては、ガラスの掃除がしにくいこともあります。掃除のしやすさも忘れずにチェックしておきましょう。

その3 出窓を付けた甲斐が無いリフォームに



リビングの小窓を出窓に交換するリフォームを行った。もともと床から90cmと少し高い位置についていたが窓の位置を変えると外壁の工事が大変になると言われ、そのままの位置で交換することにした。

無事に工事は終了したが、出窓の位置が微妙に高いため、花や人形を飾ってもバランスが悪く、部屋がひろびろという感じがしない。

結局カウンターの上は、収納に入りきらないモノの一時置き場となり、それらが光を遮るため、いつも部屋が薄暗くなり、リフォームした甲斐が感じられない結果となった。

【原因と対策】

出窓は取付高さが重要です。位置が高すぎると、バランスが悪くなり、飾り物を置いても映えず、結局はモノ置きになってしまうことも。出窓は低めの位置に取付けると安定感が増します。

椅子に座る部屋か、床に座る部屋かによっても出窓のちょうどよい高さは変わります。リビングでも、床に座ることが多い暮らしなら床からカウンターまでの高さが50cm以内に、ソファに座る暮らしなら70cm以内にしておくと、落ち着き感が出ます。

その4 出窓を付けたせいで真夏の部屋の中が温室状態に

リビングに出窓が欲しいと思ったが、南側の窓は庭に出る掃き出し窓なので、西側に出窓を付けるリフォームをした。今までも窓があったから大丈夫と思っていたが、雨戸や庇が無いので西日を遮ることができず、夏の夕方になるととても暑くなってしまった。

【原因と対策】

出窓には雨戸や庇が取付しにくいので、西側の壁面に付けるのはお勧めできません。また、ガラスは遮熱+断熱性能が高いエコガラスに交換する。外側に日除けを付けて直射日光を遮るなどがあります。

その5 家の周辺を歩くと出窓に身体をぶつけてしまう 出窓で隣との距離感が変わった



隣家への配慮や通路の確保も大切

出窓を取付けたら、外壁から出っ張ったため、外まわりの通路が思ったより狭くなり、急いで通り抜ける時などに、体をぶつけてしまい、痛い思いをすることがある。

また、2階の子供部屋に出窓を付けるリフォームをした。その窓は隣の家のトイレの窓と向かい合っていたが、距離があるので問題ないと思っていた。

しかしリフォーム後少したってから、お隣の娘さんが2階のトイレに入りたくないと言っていると聞いた。窓が近づいたせいで、気になるとのことで、法律的には全く問題はないのだが、なんとなく気まずい思いをしている。

【原因と対策】

出窓は家から飛び出した部分が窓になるので、隣家との距離が縮んで感じるようになります。隣家との距離感はもちろん、外まわりの歩きやすさもよく検討しましょう。

3、出窓の取り付け理由を伝えて提案してもらおう

出窓は部屋を広く見せることにはよいと思いますが、出窓でない方が使い勝手が良い場合もあります。リフォームの際は良く業者と相談してよいプランを提案してもらおうとよいでしょう。出窓はコストが上がる上、雨天時は出窓屋根に雨音がうるさく感じることも多いです。どうしても取付けたい場合は、窓の高さや形を目的に合わせて行うのが良いでしょう。

土木建築
リフォーム

本社 海津市海津町高須町720-1
0584-53-0174
海津市海津町馬目371-3 (コーポ日新1F)
0120-202-988
E-mail info@watanabegumi-kaizu.com
URL http://www.watanabegumi-kaizu.com/

株式会社 渡辺組

*毎月皆様の暮らしのお役立ち情報をお届けしています。何かお気付きの事や知りたい事などございましたらいつでもご連絡なくお申し付け下さい。皆様のご意見ご感想を元にお役に立てれば幸いです。